

## つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書 (令和3年度) 2021年

	月	日	曜日	開始	終了	場所	会員参加数
	12	25	土	9:00	12:30	五味ヶ谷市民の森	20名
活動名称	五味ヶ谷里山体験会					報告者：吉井 優	

### 1、活動目的

私達が市民管理協定で整備している五味ヶ谷市民の森は、竹林と雑木林からなり、近隣住民の散策路として親しまれています。この森を子供たちに積極的にアピールし、楽しさを通して森の大切さを理解してもらいます。市民の森の竹林で発生する竹を有効利用する目的で、門松教室を実施しています。家族で協力して門松を作ることで、家族の絆が深まり、地域の方々のふれあいもできます。

### 2、活動内容ほか

コロナ禍ということで今年も市民の森で開催しました。寒さ対策として、竹を燃やす準備をしたが、雨あがりということもあり、青空がひろがり気温が上昇し、快適な環境となりました。9時に受付開始し、9時半からイベントの説明、門松の作り方を説明し、竹選びから始めました。6本の竹を、適度の長さに切断し、3本まとめて、畳表で包み、わら縄で固定する。畳表の下部を切り開き、繊維を広げます。これに松と梅と南天と紙飾りをさして門松が完成します。11時半過ぎにほぼ全員の門松が完成し、全員で後片付けをして、12時にはイベント終了となりました。

### 3、評価：

40組の募集でしたが、例年1割程度のキャンセルがあるため、42組受付し41組が参加しました。受付終了後も数十組の申し込みがあり、ひたすら断り続けるという好評なイベントでした。期待も大きいですが、イベント終了後、参加者が笑顔で帰宅しています。来年藤金自治会で開催を計画することで、希望しても参加できなかった方が参加できるチャンスが増えそうです。

### 4、課題

今年の門松づくりでは、丈の長い畳表を使い、下部を切り開くスタイルでした。ジュニア門松考案者の私から見ると畳表の部分が長すぎ、竹を覆い隠すような門松が目立ち違和感を感じました。市役所に飾った大型門松では、樽の中に竹を固定し門松を完成させ、プラスチックの樽を藁の菰で覆い土台としました。ミニ門松では、太い竹を切断した桶を作り、その中に門松を固定し門松が倒れないよう土台にしました。

現在作っているジュニアサイズの門松は、土台の入れ物がない代わりに、幹巻きテープで門松の下部を覆い、樽や桶の代わりとして、全体のフォルムを安定した形状にしたものです。門松を構成する松は千寿を契り、竹は万代を契るといわれる縁起物です。この竹と松を目立たせるためのフォルムが畳表によって隠されるのはもったいないのではと感じます。

参加者の好みでどんな形状にしようと自由ですが、現在の畳表のサイズで下半分を割いて開く作業は、かなり難易度が高いようです。幸い佐野さんの経験によると、畳表を丸めて、手鋸で切断することは容易だとの情報がありますので、来年は、畳表を半分に切り、竹が半分以上見える門松も提案したいと思います。



<里山参加会員>

小澤邦、佐野、吉井、小澤弘、石川、杉山、小嶋、小沼、牛島、大森、松井、上見  
風祭、柳川、脇谷、柏木、内藤、上野、田中、木部、

<活動写真>

